

NYでの書道文化交流と 外国人弁論大会 持田勉さんら、知事に活動報告

この秋に、アメリカ・ニューヨークにおいて書道文化交流、出雲市においては外国人による弁論大会を開いた「島根と海外を結ぶ文化交流事業」実行委員会の持田勉会長らが二十六日、県庁を訪れ、溝口善兵衛知事に活動報告を行った。



資料を見せながら溝口知事(中)に報告をする持田さん(右) = 28日、松江市殿町、島根県庁知事室で

県庁知事室を訪れたのは、持田さんと、同実行委員会会計監査役の長瀬泰治さん。

同実行委員会は、九月十七日から二十一日までの間、「第一回しまねとアメリカ・ニューヨークを結ぶ書道文化交流事業」を展開。ニューヨークにある日本総領事館広報センターのギャラリーにおいて、県内の書道愛好家や高校生による書道作品約百二十点を展示したほか、持田さん

による日本の書道文化に関する講演と実技指導も行われ、現地在住の日本人だけでなく、地域の大学生や家族連れらで盛況を博した。ニューヨーク市と、世界貿易センタービルの跡地に建設中のワン・ワールド・トレードセンターへの持田さんに

よる書道作品の寄贈、老人介護施設への展示作品の寄贈、現地の子どもたちとの交流など、さまざまな場所で交流を図った。

十月二十四日には「第一回神話博外国人による『日本への提言』全国弁論大会」を出雲市大社町のうらら館で開催。全国から応募、選ばれた外国人大学生や国際交流員らが、教育や観光などの諸課題について「外から見た目線」で今後の在り方を

対策について論じた。これらの報告を受けた溝口知事は「島根県から発信されたこの二つの文化交流事業の成功に心から敬意を表し、感謝申し上げたい」と語り、謝意を伝えた。

持田さんは「この短い期間でこれだけの事業を行えたのは、自分でも信じられない。協力してくれた方々に感謝したい」と話し、「弁論大会は、教育団体などから今後の継続に対する支援の声も上がってきており、文化交流の種がまかれたことを実感している」と述べた。